

○2番（染谷直人君） 皆様、こんにちは。議席番号2番、染谷直人でございます。議長より発言の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。傍聴の皆様におかれましては、最後まで傍聴ありがとうございます。また、橋本町長におかれましては、町勢発展に日々ご尽力いただいておりますこと、心から敬意を表する次第でございます。また、私ごとではございますが、本日が当選後初めての一般質問の機会をいただいておりますので、不慣れな点もあろうかと思いますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより通告に従いまして一般質問をさせていただきます。大きく分けて3点お伺いいたします。1項目めが義務教育の充実について、2項目めが通学路等の安全対策について、3項目めが災害時等の情報伝達についてであります。

まず、1項目めの義務教育の充実、先進的な英語教育の取組と今後に関してでありますけれども、橋本町長就任以来、全ての子供が英語を話せる町へということで、境町スーパーグローバルスクール事業が展開されており、英語移住の推進はじめ全国平均の4倍のALTの先生の招聘など、子供の国際化や小さい頃から能力を伸ばす施策に取り組まれていることと思います。

そこで、お伺いいたします。これまでの取組の成果と、さらに注力したいことについてご教示ください。

また、先月18日に米国のハワイ州ホノルル市と姉妹都市協定が締結されました。これまでの歴史的な結びつきがない中での異例の快挙であるとも考えておりまして、これもひとえにこれまでの交流深化等の尽力によるものと認識をしております。

そこで、お伺いしますが、新型コロナが終息するという前提ではありますけれども、留学や文化交流の促進など、これからどのようなことができるようになるのかという点についても併せて教えていただければと思います。

次に、1項目め、②のスピーチ及びプレゼン教育の導入に関する提案でございますが、国際的に活躍する人材、社会に出て活躍する人材を育むためには、表現力の養成、いわゆるスピーチやプレゼンテーション能力を身につけ高めることが肝要であると考えております。欧米では学年に合わせて好きなものやことを見せたり、教えたりするショー・アンド・テルという事業から始まりまして、スピーチやプレゼンの能力向上を学校教育の中で図っていくそうでございます。日本の学習指導要領の中にも児童の主体的、対話的で深い学びの実現を図るようにすることという文言は入っております。この際、英語教育等で特化した取組を行う当町だからこそ、部活動や課外授業の活用も含めて、義務教育の枠組みの中にスピーチやプレゼン能力の向上、充実を図るような取組を行ってみたいとはいかがでしょうかというのが私の提案でございます。こちらに関しても感想でも構いませんので、町のお考えをご教示いただければと思います。

続いて、2項目めの通学路等の安全対策に関してでございますが、以前の全員協議会にて町においては既に危険箇所の把握を行い、その箇所の是正に取り組む旨をご説明いただいておりますが、町民の皆様、保護者の皆様、とても関心のあることと思いますので、改めて

通学路の危険箇所等の把握状況と当該危険箇所の改善状況及び今後の見通しについてご教示いただければと思います。

また、カーブミラーに関してでございますが、町内多くに設置していただいていると認識しておりますが、その設置基準と保守管理状況についてもご教示ください。

加えて、曇らないカーブミラーに関してでございますが、導入する意向、お考えについてあるかご教示いただければと思います。冬の季節ともなりますと、とりわけ田畑の多い農村部においては、カーブミラーが曇るという現象が発生しております。あくまでもカーブミラーは安全な運転を補助する副次的な装置と認識をしておりますが、見通しの悪い十字路等においては、相当程度の役割を果たすものと考えておりますので、曇らないカーブミラーの導入も通学路等の安全確保に資するものと考えております。多くは寒冷地帯で導入されるもののようでありますけれども、近隣の埼玉県久喜市でも導入実績がある模様でございますので、こちらの導入の意向、考え方について見解をご教示いただければと思います。

最後に、災害時等の情報伝達に関してであります。既に当町ではS a k a i n f oという防災アプリが開発されており、緊急時の町からの情報伝達が行えると同時に、ユーザーの安否確認も行える双方向のコミュニケーションが可能な状況にあると考えております。ネット世代、若い世代向けには町のホームページ等にアクセスするより、アプリでぼんと情報が入手できるため、手間もかからず、大変よい施策なのではないかと個人的には考えております。

そこで、改めて伺いいたしますけれども、こちらのアプリのダウンロード数と活用状況についてご教示いただければと思います。また、S a k a i n f oの今後の活用について、足元の自然災害情報やコロナ関連情報のみならず、犯罪や火災等の情報発信も加えて行うことができれば、より利便性が向上するものと考えますが、その辺のお考えについてもご教示いただければと思います。

以上、3項目の1回目の質問といたします。執行部の誠意あるご答弁をお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 最初に、義務教育の充実についての質問に対する答弁を求めます。
教育次長。

〔教育次長 小関幸枝君登壇〕

○教育次長（小関幸枝君） 染谷議員の1項目め、義務教育の充実についての1点目、先進的な英語教育の取組と今後の展望についての質問にお答えいたします。

初めに、これまでの取組の成果と、さらに注力したいことについてにつきましては、境町では平成30年度から町内全小中学校での先進的な英語教育をスタートしており、姉妹都市であるフィリピン共和国マリキナ市から優秀な英語講師を招聘して小中学校に配置しております。令和3年度につきましては、小学校に13名、中学校に8名のALTを配置し、児童生徒へのきめ細かい英語指導を行っているところでございます。現在の文部科学省の学習指導要領では、小学3年生から授業における外国語活動が実施されておりますが、境町においては一歩先を行く取組といたしまして、小学校1年生から英語教育が始まり、小中学校の

9年間を通して実用的な英語力を身につけるための授業を実施しております。

また、境町の先進英語教育の成果を試す場として、平成30年度からは小中学生の希望者に対して県西地区では初となる英検受験料の全額補助を実施しております。こうした取組の成果といたしまして、英検合格者数が増加しており、小学生では平成30年度に49名だった合格者が令和元年度138名、令和2年度179名と増加しており、令和2年度においては、6年生の6割以上が中学1年生レベルに相当する英検5級以上を取得している状況でございます。中学生では、平成30年度に95名だった合格者が、令和元年度190名、令和2年度243名と増加し、中学3年生におきましては、本年度の試験結果が先日発表され、令和2年度に3級以上保有している生徒の割合が学年全体の29.4%だったのに対し、本年度は42.3%となっており、前年比で12.9%増加しているところでございます。子育て支援と合わせ、境町の英語教育の魅力に引かれて、水戸市や古河市、千葉県野田市、埼玉県戸田市など県内外からの移住者が増えており、令和2年度には子育て世帯74世帯が境町に新たに移住しているなど、年々子育て世帯の移住者が増加している状況でございます。移住者の方からは境町の子供たちは英語ができるので、自分の子供にも境町の教育を受けさせたかったとのお声をいただいております。

また、英語教育に関するほかの自治体からの視察につきましても、感染状況を鑑みながら徐々に受入れを再開しており、つくばみらい市や大洗町、神奈川県中井町などから視察に来ていただいているほか、日本経済新聞の教育移住特集に境町の英語教育が取り上げられるなど、各種メディアでも大きく扱っていただいているところでございます。今後はGIGAスクール事業として整備された1人1台端末につきましても、積極的に活用し、ICT教育と合わせて境町の先進英語教育を推し進め、子供たちの将来の可能性が広げられるようしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

続きまして、ホノルル市との姉妹都市締結によるさらなる英語教育の加速の可能性と展望についてにつきましては、境町では平成30年9月にホノルル市との友好都市協定の締結以降、境町の中学生とホノルル市の中学生による交流を継続して実施しており、令和元年12月にはホノルル市において境町立中学校とホノルル市アリアマヌ中学校との姉妹校提携協定が締結されております。両校の姉妹校交流といたしまして、令和元年度の生徒の相互ホームステイの計画が新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実施が延期されている状況でございますが、生徒たちはオンラインによる交流を続けておりまして、コロナ禍における生活の変化について意見交換するなどの親交を深めているところでございます。

また、小学校におきましても、姉妹校締結を念頭に境小学校児童とノエラニ小学校児童がオンライン交流を実施しており、今年9月のコロナ禍による臨時休業期間中には、境小学校の6年生児童全員が自宅からオンラインでノエラニ小学校との交流に参加し、先月11月16日にはハワイと日本の給食のメニューについて写真を交えながらお互いに紹介し合い、交流を深めたほか、ハワイで人気のスポットはどこかなど、子供たちは積極的にハワイの児童

に質問しておりました。

次に、ホノルル市との姉妹都市締結によるさらなる英語教育の加速の可能性と展望につきましては、今回の姉妹都市協定提携をきっかけに、子供たちの相互交流がさらに加速していくものと考えております。先月、11月18日の姉妹都市締結調印式では、リック・ブランジヤルディホノルル市長から今まで以上の深い絆で教育、文化、ビジネスの面で友好関係を深めていきたい。来年6月、境町がワイキキビーチで打ち上げる花火大会でお会いできるのを楽しみにしているという境町との交流への期待を込めたお言葉をいただきましたので、当町といたしましてもホノルル市のご協力をいただきながら、中学校のホームステイ事業による相互交流や両市町間の小学校の姉妹校締結、スポーツ交流事業の実施に向けて準備を進めるとともに、教職員のホノルルとの短期交換プログラム、町内在住の高校生や大学生の短期留学などについても協議してまいりたいと考えております。

また、本来コロナがなければ、ホノルルへの派遣対象であった境一中や境二中の卒業生のホノルル訪問についても検討してまいります。

今後も両市町の交流を通して、子供たちが自信を深め、さらなる飛躍を遂げるための支援に町としてもしっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

次に、2点目、自ら発信するスピーチ及びプレゼン教育の導入について、欧米での一般的なスピーチ及びプレゼン教育の導入についての質問にお答えいたします。議員ご指摘のとおり、スピーチ力、プレゼンテーション力につきましては、グローバル社会においては大変重要な資質の一つであると考えられます。日本の学習指導要領の中でも、育成する資質、能力として、思考力、判断力、表現力の育成に努めることが全教育課程の中に取り込まれるとともに、授業においてもアクティブ・ラーニングの学習方法が取り入れられております。このため、当町においても各教科において自ら学んだことや調べたことを説明する活動など、児童生徒の発達段階に合わせてスピーチする力やプレゼンする力を育成しております。特に小学校3・4年生に導入された外国語活動や5・6年生の外国語科の学習では、英語による言葉のやり取りや発表についての活動も実施しているところですが、さらに本町ではSGS、スーパーグローバルスクールの事業の中で、児童生徒の興味、関心に応じて発表する事業も展開しております。

また、中学校では、今年度から茨城県において英語プレゼンテーションフォーラムが実施され、本年7月には私たちが進める茨城マイクロリズムのテーマの下、本町の中学生も境町の魅力を英語でプレゼンテーションいたしました。この発表につきましては、各校で代表者それぞれ5名が課外で英語教師とともに準備練習し、発表したものです。義務教育の中では、こうした取組の中でスピーチ力、プレゼン力の育成に取り組んでいるところでございますが、今後さらに当町といたしましては、特別授業並びに講演会などでこの道にたけた方々においでいただき、プレゼン力についてお話をいただくなどの機会を設けることも有効と考えております。今後も児童生徒のスピーチ力やプレゼン力を含めた表現力の育成に力

を注いでまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対して、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 様々成果等を教えていただいて、ありがとうございました。英語移住も増えている、英検の合格者数も増えているということで、すばらしい状態だと思いますが、これは確認ですけれども、境町のこの英語移住と英語教育がすばらしいというので、認知度がアップ、定着しているということでよろしいのでしょうかというところと、卒業生のホノルルの派遣というのは、大切な思い出にもなるかと思っておりますので、ぜひ検討を加速いただければと思います。

また、スピーチ、プレゼン教育に関しても前向きなご答弁ありがとうございました。アウトプットの間としては、高円宮杯英語弁論大会ですとか、全国青年弁論大会等もありますので、そういったご活用も併せてご検討いただければと思います。すみません。何か長くなってしまいましたが、確認としては、認知度アップ、英語としての教育の町ということで定着しているのでいいかというところについてご答弁いただければと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

教育長。

○教育長（忍田暢男君） 染谷議員の再質問にお答えさせていただきます。

先ほども答弁の中にございましたように、当町におきましては、平成30年度から全校において質の高い指導力の確保ということで、マリキナ市との姉妹都市を契機としまして、指導力の高い教員の配置というような形と、そのALT、英語指導講師の配置に伴いまして、様々な環境がやはり整ってきたというふうに私は思っております。もちろん学校における授業での英語教育の充実と、それから昨年度来コロナ禍の中でもやはり臨時休校等の期間中においても、オンラインによる英語学習の機会を確保したということについても、これもやはり現在のSGS事業における体制による大きな効果ではないかというふうにも思っております。そうした当町の取組がやはり近隣も含めて、ほかの自治体からの行政視察も含めて非常に注目をされているというような中で、先ほど答弁させていただきましたように、具体的にこの境町における英語教育の取組について魅力を感じて、この境町に移住していただいて、そしてお子さんのほうもこの境町で学んでいただいているというような状況を考えますと、やはりこの当町における先進的な英語教育というものについては、なかなかでき得ないこの環境がつくられているのではないかというふうに思っております。

ただ、やはり当然これからさらに充実していくためには課題がありまして、ある面このコロナ禍で大きな柱としましては、どうしても日本に生活しておりますと、やはり英語の使う場というのが圧倒的に少ないと、それは動機づけにも繋がってまいりますので、そういった面ではやはり子供たちがこれからホノルル市等のいわゆる国際交流を通して、やはりその英語の必要性ですとか、英語ができることの喜びとか、そういうものを実体験として味わっていただくというようなことが非常に大事なのかなというふうに思っております。

ナの影響もありますけれども、そういった具体的な英語を発揮できる、そして英語を学び続ける、そういう動機づけを今後も続けていくことによって、さらにその境町の英語教育が充実していくというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 関連してになるのですけれども、交流が促進をしていく中で、仮に留学をしたいというようなお子さんが出てくることも可能性としてはあるかと思えます。そういった場合の支援策等何か考えていることがあれば教えていただければと思います。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷直人議員の再質問にお答えをさせていただきます。

このスーパーグローバルスクール、日本でもまれな事業ということでやらせていただいておりますけれども、コロナということがあったものですから、まだその先ほど言ったような例えば英検の合格者がもう3倍になったとか、さらには小学校1年生で英検を受ける子が出てきたり、もう2年生で英検4級受かったりとか、そういった子が出てきているということは、まだ全然PRをしておりませんので、今後そういったものもPRすることによって、移住の柱にはなっていくだろう。さらには、やはり移住とかというのは、移住政策、子育て支援策を出したからとか、移住政策を出したからって移ってくるものではないですね、駅もないですから。ですので、我々境町は教育を真ん中に据えたのです。日野自動車の方が引っ越してくる際に、いろいろターゲットを絞りましたけれども、実際には小山市とか、久喜市、古河市、さらには春日部市に住んだわけです。あとはもう日野に住んでいる。理由は2つありました。1つは、子供たちの教育がやはり茨城ではきついということで、最低限駅があるところと。それは駅があるところから東京に通うという意味です。それでなかなか引っ越してこれない。そして、もう一つあったのは、お父さん、お母さんが特養に入っていると、八王子の特養に入っているのだけれども、茨城帰って特養に入れるかといったら、結構特養がいっぱいで入れない。だから単身で旦那さんだけ引っ越してくる。こういう2つのような事象があったのです。その際にどちらをターゲットに絞ろうかというところで、僕らは子供たちにターゲットを絞ったと。そんな中で、やはり三田学園総合であったり、軽井沢の高校であるところは、英語教育で全国から30名の定員に対して1,200名の応募があるわけです。なおかつ実際に年間の授業料も、多額のお金を払っても入れたいと、そういうような需要がある。そういうところでこのスーパーグローバル事業を議員の皆様方に納得していただいて、そして導入をしたというような経緯がございます。

ですので、本当にこの英語の事業は、いろんな方にお世話になって、今こういう形になってまいりましたけれども、とにかく境町はマリキナ市と同じように、マリキナ市はマリキナ市立大学、全額無料でやっています。どんな子であっても、マリキナ市の住民であれば大学に行けるようにと、そういう市長の配慮でありました。我々もこの境町に住めば英語ができる。こういうアンケートも取ってみました。習い事です。習い事でご両親がさせたいのは英

語だそうです。ですが、英語を学ぶ塾に行っているランキングで言うと一番下になってしま
うのです。やっぱりスイミングがやりたいとか、サッカーがやりたい。バレーがやりたい。
野球がやりたい。それが優先になってしまって、なかなか英語まではお金が回らない。そう
いう中で英語を全額こうやって町の支援でやっていただいているのは非常に助かるという
ようなお声もいただいていますし、この間もあそこの長田小のアルゼンチンの日の集いで、
ちょうど大使と、大使はスペイン語ですけれども、英語も分かりますので、子供たちに誰か
英語でしゃべれるかと言ったら、英語でしゃべっているのですよね、6年生が。大したもの
だなど思いながら、そういったことがありますので、やはりそういった意味ではこのSGS
事業というのは、中核というか、柱になりつつあるのかなというふうに思っています。

さらには、やはり今、保育園の5歳からこの事業をやっているわけですがけれども、行く行
くはやはり境高校だとか、そういったところも本当は連携して、これ県立なのであれなので
すけれども、連携をして、やはりずっと一貫して英語がしゃべれるように、文法とか、点数
が取れるのではなくて、英語がしゃべれるようにと、僕らもしゃべれないものですから、し
ゃべれない割にはよく姉妹都市になったなどと思いますけれども、やっぱりしゃべれると全
然違うわけです。ですので、そこお二人は、お二人の若い議員さんはしゃべれるみたいで
すので、非常に子供たちの未来の可能性として、年収も英語がしゃべれるとしゃべれないとで
は1.5倍違うと、生涯年収においても。そういうデータも全部出ておりますし、実際にコロ
ナが明けてくると、フィリピン、タイ、インド、それからインドネシア、シンガポール、英
語圏です。そういう国の方々が今もうどんどん経済成長していて、どんどん日本は人口が減
って行って、経済の規模が小さくなっていっている。昔、日本の方が東南アジアに行って、
いろんな旅行したりなんだりしたと思うのです。その逆が起きつつあるわけです。そんな将
来に日本の子供たちを置きたくないというためにやっていますので、やっぱりこの教育が
いいことによって、もう日本人が負けられない、子供たちの未来が広がる、そういう事業だと思
っていますので、よろしくお願いします。

ですので、留学については、多分僕らいつもやっているのは、こういうことやるのです。
例えば沖縄のリーダーシップ研修でも、それからホノルルへの研修でも、それからフィリ
ピンはまだやっていないですけれども、そういった際に、例えば少しでも参加費を取ろうとし
たりするのは、子供たちから。僕はそれやらないのです。1万円、2万円取るなら、全
額無料で、どんな家庭であっても、それはどういうお金持ちの子であっても、そうでなくて
も、どんな子であってもチャンスは平等に置くべきだろうと。なので、やりたいとか、行き
たいとか、勉強したいという努力があれば、それはあと、学校の先生が選びますけれども、
その点数とか、そういうのは。行ける子、行ってもいいかどうかというのを。でも、そうい
う子、どういう環境であっても、町が支援をして、そして希望をつくってあげたいというふ
うには思っていますので、中学生なのか、高校生なのか、大学生なのか分からないですけれ
ども、やっぱりそういったことも議会の皆さんと相談して、留学のプランとか、そういった
ものもつくって、それを町の奨学金ではないですけれども、返さなくていいような奨学金つ

くって、応援してあげる。年に1人とか2人でも応援してあげて、そういう子たちが境から巣立っていけば、非常にいいことだというふうに僕は思っていますので、そのためにこのホノルル市ともやりましたし、やっぱり中高教育学校、総和にできましたけれども、そこはオーストラリアとかとやるわけです。境町の1割の子が行くわけです。だから、やっぱりそういうところで、境一中、二中に行かないで、子供たちが減ってしまうのではなくて、一中、二中に行けばホノルルへ行けるみたいだぞとか、留学できるみたいだぞという、そういうやはり希望をつくることによって、そのまま地元の一中、二中に行っていただけ、そんな施策にもなると思ってやっていますので、ぜひ留学の子のプランとか、それからいろんなプランはどんどん支援をしていきたいというふうには思っていますので、議員の皆様方ともにつくっていききたいというふうに思っていますので、よろしく願いたいと思います。

以上です。

〔「ありがとうございました」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

〔「大丈夫です。ありがとうございました」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） これで義務教育の充実についての質問は終わります。

次に、通学路等の安全対策についての質問に対する答弁を求めます。

最初に、教育次長。

〔教育次長 小関幸枝君登壇〕

○教育次長（小関幸枝君） 染谷議員の2項目め、通学路等の安全対策についての1点目、現在、町が把握している危険箇所についてのご質問にお答えいたします。

通学路の危険箇所等の把握状況につきましては、6月28日に千葉県八街市において下校中の児童の列にトラックが突っ込み、5名が死傷する痛ましい事故が発生したことを受けて、町では通学路における安全を一層確実に確保するため、教育委員会及び学校、関係機関が相互に連携し、この10月に一斉合同点検を実施して、危険箇所の取りまとめを行いました。その結果、ガードレールが破損している箇所や横断歩道内の標示が薄れて見えにくくなっている箇所など40か所の報告があり、早急な対策が必要な11か所を優先箇所として確認いたしました。

次に、当該危険箇所の改善状況及び今後の見通しについてにつきましては、道路管理者及び地元警察署から技術的な助言を得ながら、現在11か所のうち8か所につきましては発注済みで、年内に工事が完了する予定でございます。残り1か所の冠水対策事業につきましては、年内に発注し、年度内完成を予定しております。

また、国道管理者の管轄になる1か所は境工事事務所へ、道路標識規制に関するもの1か所は境警察署へ改善実施に向けての要望書をそれぞれ提出させていただいたところがございます。今後も引き続き安全な通学路を確保するため、関係機関と共通認識を深め、通学路の安全確保に向けた取組を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろし

くお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 次に、危機管理部長。

〔危機管理部長 野村静喜君登壇〕

○危機管理部長（野村静喜君） それでは、染谷議員さんの2項目め、通学路等の安全対策についての2点目、カーブミラー設置について、設置基準と保守管理状況についてのご質問にお答えします。

カーブミラー設置基準でございますが、道路構造令に交通事故防止対策として、他の車両または歩行者を確認するための鏡を道路の局部や見通しの悪い交差点等に設けるものと定められております。当町においては、町道の中に一定程度の交通量があり、見通しの悪い危険箇所カーブミラーを設置することとしており、道路利用者の安全確保のため、行政区や関係機関からの要望または担当者がパトロールを行い、危険箇所を確認し、設置しているところでございます。

次に、保守管理状況でございますが、設置以降の管理につきましては、パトロール等で現地確認を行い、保守清掃等を行っております。また、年1回定期的に交通安全協会や交通安全母の会と協力して、通学路点検やカーブミラー清掃を実施しており、保守管理と安全確保に努めております。

次に、曇らないカーブミラーの導入についてでございますが、染谷議員さんから久喜市で導入しているとの話をいただき、確認いたしましたところ、平成28年から新規及び修繕の際に随時交換し、現在8割程度が交換済みであるとのことでした。

また、近隣では、結城市が数年前から導入し、全体の二、三割程度が交換済みで、下妻市が小学校の前や薄暗いところに2か所設置しております。効果については、試験的に行っている段階ではありますが、経費は1か所当たり、鏡だけを交換する場合で3万円が6万円に増えるものの、苦情はほぼなくなったとのことでございます。

当町におきましては、現在苦情等が寄せられておりませんので、今後状況により議会の皆様と協議をして検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 近隣市町村での事例を教えてくださいまして、ありがとうございます。コスト等の問題もありますので、なかなか一概に入れ替えるというような決断されるのは難しいかと思いますが、例えばですけれども、モデル地区とか、小学校の近辺ですとか、そういったところを決めて、ひどいような場合は替えていただくような措置等ご検討いただければと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷議員さんの再質問にお答えをします。

染谷議員さん、先ほどおっしゃったとおりで、2,000か所近くありますので、2,000か所掛け

る6万円だと1億2,000万ですので、なかなかこれは全部交換するというのはちょっと難しいかなと思います。境町の場合は、幸い、その苦情はなかったというだけで、一般のいろいろ例えば笠間とか、この辺見ると、要は市長への声みたいなところに、見えないので二、三メートル出なくてはならなくて危ないとか、曇っているのとか、そんな声も出ているので、逆に議員さん方で皆さんでそのカーブミラー、その曇らないカーブミラーというのもまず見ていただいて、僕も見えていないものですから、みんなで見て、なおかつその学校の周りとか、あそこは危ないよなというところが、それはもうPTAさんなり、それから地域の防犯パトロールさんなり、いろんな人に入っていた中で、ここは替えたほうがいいだろうとか、ここはでは試験的にやってみるかということであれば、そういったことは予算化していきますので、またぜひ議会の皆さんともご協議いただければというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） 答弁に対する質問はございますか。

〔「ありがとうございました」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） そうすると、通学路等はよろしいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） これで通学路等の安全対策についての質問を終わります。

次に、災害時等の情報伝達についての質問に対する答弁を求めます。

危機管理部長。

〔危機管理部長 野村静喜君登壇〕

○危機管理部長（野村静喜君） それでは、染谷議員の3項目め、災害時等の情報伝達についての1点目、S a k a i n f oの利用状況について、ダウンロード数と活用状況についてのご質問にお答えします。

境町では、平成30年6月から新たな情報手段として、インターネット回線を利用した防災アプリS a k a i n f oを導入して、町民の皆様様に災害情報を配信し、12月1日現在、ダウンロード数は3,770人であります。利用状況といたしましては、台風などの気象情報や道路冠水等の交通情報、警戒レベルに応じる避難情報などの災害関連情報やコロナ禍における町の対策やワクチン接種のお知らせ、感染予防に関する注意喚起など、町民の安全に関わる情報を重視して、適宜配信しております。

その中において、令和元年の東日本台風における住民アンケートでは、登録者の78%が避難時に一番役に立った情報手段であったとの回答を得ております。NTTドコモモバイル社会研究所において、2021年1月に実施された全国のスマホ保有者を対象にした一般向けモバイル動向調査では、何らかの防災アプリを登録している人が約47.3%で、過半数と高く、反面、自治体独自の防災アプリ登録者数の平均が約6.4%にとどまっており、防災意識の高まりに比して普及率が低いのが現状です。境町においては、スマホ保有者約71%に対し、登録者数が約22%で、全国自治体の平均よりは高いものの、まだまだ不十分であり、引き続きあらゆる手段、あらゆる防災活動等を通じ普及に努めてまいります。

また、高齢者においては、依然防災行政無線に依存する割合が36%と高く、その教訓から令和4年11月以降の防災行政無線のデジタル化への移行を踏まえ、戸別受信機を全戸配布すべく整備中であります。さらに、防災アプリで全国普及率が約32.6%と最も高いヤフーとの災害協定により、町独自の防災速報を配信できるようになるなど複数の情報手段により、より確実な災害情報等を町民の皆様に届けられるよう整備しております。今後より効果的に災害情報が伝わるようS a k a i n f oのバージョンアップについて継続して調整してまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、2点目、S a k a i n f oの今後の活用について、自然災害情報のみならず、犯罪や火災等の情報発信も加えて行うことはできないかについてのご質問にお答えします。ご質問にありました犯罪に関する情報につきましては、警察からの詐欺、盗難などの犯罪情報に基づき、既にS a k a i n f oでも配信し、注意喚起を行っているところであり、今後さらに学校等における不審者情報等においても適宜配信してまいります。

また、火災情報につきましても、茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部から各市町の消防担当者まで、メールによる火災発生情報が配信されていることから、この枠組みを利用し、今後リアルタイムで町民の皆様にお伝えできるようS a k a i n f oでも配信してまいります。なお、現在は消防本部ホームページでは既に希望者に対し、メールアドレスの登録またはQRコードの読み取りにより、火災メールの受信登録が軽易に実施できるようになっていることから、併せて普及に努めてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 先ほどご答弁の中で、災害時にこのアプリが一番役に立ったというようにお声があったかと思いますが、その一方でなかなかダウンロード数は増えていかないという痛しかゆしの状態なのかなというふうに推察をいたしますけれども、少し災害限定のアプリからすると趣旨は離れてしまうかもしれませんけれども、S a k a i n f oというか、アプリを開けば何らか境町の情報がプラットフォームのようになっているような状況をつくるのも一つの手かなと、それを見れば何となくアクセスしたいものについては行けるのだというような状況をつくれれば、よりダウンロード数が増えて、町民の皆さんのお役に立てるのではないかなというふうに思うのですが、その辺についてはいかががお考えでしょうか。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷議員さんのご質問にお答えします。

僕も昔そんなことを言ったことがございますが、いまだにできていないというのが現状ですので、再度開発者に対して、そういうS a k a i n f oの中に本当に広報が載っているとか、そういうことですね。もうそれがポータルサイトになっていけばいいわけですから

, そういうふうにはできるかどうか, 再度検討していただきたいというふうに思っていますので, よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対する質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 大変力強いご答弁ありがとうございました。

これにて今回の一般質問, 以上とさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（倉持 功君） これで染谷直人君の一般質問を終わります。